

小学校第6学年 音楽科学習指導案

日 時 平成28年10月25日（火）2校時
指導者 教育センター所員 坂本 康子

1 題材 「和音の美しさを味わおう」

- 2 教材 「星の世界」(川路柳虹 日本語詩／コンバース 作曲／飯沼信好 編曲)
「雨のうた」(鹿谷美緒子 作曲)
「和音の音で旋律づくり」

3 題材設定の理由

本題材「和音の美しさを味わおう」は、学習指導要領「A表現」の(1)エ「各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと」、(2)ア「範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること」及びエ「各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること」、(3)イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること」を受けて設定したものである。高学年の児童は、和音や和声に対する感覚が著しく発達する。その時期に、いろいろな形態の合唱や合奏などを通して、音の重なりや和声などの響きによる様々な特徴を感じ取ったり、音楽づくりの活動を通して旋律に合う音や和音を探ったりするような活動に取り組むことは重要である。そこで、本題材では、和声の美しい響きを感じ取りながら、各声部の歌声や音、全体の響き、伴奏等を聴き、合唱や合奏、音楽づくりに取り組むことができるようにすることをねらう。〔共通事項〕は、旋律、調、和声の響き、反復、変化、音楽の縦と横の関係を取り上げるが、題材全体を通しては、和声の響き、音楽の縦と横の関係を重点的に取り上げる。

児童は、第5学年で、和声の響きを感じ取りながら、合奏や合唱に取り組んでいる。ここでは、和音の意味を理解し、ハ長調の4つの和音を演奏する技能も習得している。和音を使った音楽づくりには、今回初めて取り組むため、段階的な指導が必要だと考えられる。また、その際には、音楽の全体的なまとまりを視覚的に捉えることができるように、旋律と和音との関係を楽譜で確認させる必要があると考えられる。

指導に当たっては、第1次では、和声の美しい響きを感じ取りながら、三部合唱に取り組むことができるようにする。その際には、互いの歌声を聴き合って、美しい和声の響きになるように歌い方を工夫させ、主な旋律が生かされるような音量の工夫もさせる。第2次では、教材「雨のうた」を使って、イ短調とハ長調の和音の響きを感じ取らせながら、合奏に取り組むことができるようにする。ここでは、旋律の重なり方や伴奏の仕方の違いにも着目させ、それらを生かした演奏の仕方も工夫させる。第3次では、和音に含まれる音を使って、まとまりのある旋律をつくることができるようにする。4小節の音楽をつくることで、旋律と和音の関係や和音の移り変わりなどを一つのまとまりとして捉えることができるようにする。また、記譜にも取り組ませ、旋律と和音の関係を視覚的に捉えることができるようにする。

これらの指導によって、題材全体を通し、和音が豊かな音楽表現につながることを理解させ、和音に対する感覚を育みたいと考える。

4 題材の目標

- 和音の響きの変化を感じ取りながら、各声部の歌声や楽器の音、全体の響き、伴奏を聴いて合唱したり合奏したりする。
- 和音の移り変わりをを感じ取りながら、和音に合うまとまりのある旋律をつくる。

5 本題材で位置付ける〔共通事項〕

- (ア) 音楽を特徴付けている要素…調, 和声の響き
- (イ) 音楽の仕組み…反復, 変化, 音楽の縦と横の関係

6 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて歌う学習に見通しをもち、主体的に取り組もうとしている。 【関①－歌唱】	「星の世界」の和声の響きや音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取って歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。 【創①－歌唱】	「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて合唱している。 【技①－歌唱】
「雨のうた」の範奏を聴いたり、イ短調及びハ長調の楽譜を見たりして演奏する学習に見通しをもち、主体的に取り組もうとしている。 【関②－器楽】	「雨のうた」のイ短調及びハ長調の和声の響き、音楽の縦とを聴き取り、それらの働きが生み出す曲のよさや面白さを感じ取って演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。 【創②－器楽】	「雨のうた」の各声部の音やイ短調及びハ長調の和声の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて合奏している。 【技②－器楽】
音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成することに見通しをもち、主体的に音楽をつくる学習に取り組もうとしている。 【関③－音楽づくり】	音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の思いや意図をもっている。 【創③－音楽づくり】	音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成している。 【技③－音楽づくり】

7 指導計画と評価の計画（9時間）

次	時	学習内容及び学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法
1	1	・曲全体の感じをつかみ、旋律の動きに気を付けながら主な旋律を歌う。	○斉唱と三部合唱から想像した「星の世界」のイメージが違った根拠を和声の響き、音楽の縦と横の関係と関連付けながら考えさせ、曲のよさや美しさをつかませるようにする。 ○CDに合わせて歌うことで、副次的な旋律や伴奏を聴き、和声の響きの美しさを感じ取りながら歌うことができるようにする。	「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて歌う学習に見通しをもち、主体的に取り組もうとしている。 【関① ワークシート・行動観察】
	2	・和声の響きを確かめながら、和声的に重なる副次的な旋律を工夫しながら歌う。	○前時を振り返らせ、全体で話し合った音楽のよさや美しさを基に、それらが伝わるような歌い方の工夫について考えさせるようにする。 ○歌い方を工夫しながら、更に気付いたことは拡大楽譜に書き加えさせ、グループで工夫を重ねることができるようになる。	「星の世界」の和声の響きや音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取って歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。 【創① ワークシート・行動観察】

次	時	学習内容及び学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法
1	3	<ul style="list-style-type: none"> 互いの声を聴き合って、和声の響きを感じ取りながら三部合唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの練習を基に、練習するポイントを3～4つ決めさせ、目的をもって練習ができるようにする。 ○グループごとに練習の仕方を考えさせ、練習に見通しをもつことができるようにする。 ○録音して合唱を聴かせ、成長を実感させ称賛する。 	<p>「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて合唱している。</p> <p>【技① ワークシート・演奏聴取】</p>
2	4	<ul style="list-style-type: none"> 長調と短調の響きの違いや、旋律の重なり方の違いに気を付けながら、曲全体の感じをつかむ。 主な旋律と副次的な旋律をリコーダーで演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「雨の歌」の「ア」と「イ」の部分と比較させ、調による和声の響きの違いに気付かせるようにする。 ○楽譜を基に、調の他にどのような違いがあるのか音楽の縦と横の関係から考えさせ、曲のよさや面白さをつかませるようにする。 	<p>「雨のうた」の範奏を聴いたり、イ短調及びハ長調の楽譜を見たりして演奏する学習に見通しをもち、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【関② ワークシート・行動観察】</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> イ短調とハ長調の和声の響きの違いを感じ取りながら、和音パートと低音のパートを工夫して演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時を振り返らせ、全体で話し合った音楽のよさや面白さを基に、それらが伝わるような演奏の仕方の工夫について考えることができるようにする。 ○5～6人のグループをつくらせ、互いに感想や助言を伝え合いながら活動できるようにする。 	<p>「雨のうた」のイ短調及びハ長調の和声の響き、音楽の縦とを聴き取り、それらの働きが生み出す曲のよさや面白さを感じ取って演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。</p> <p>【創② ワークシート・行動観察】</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> イ短調とハ長調の和声の響きを感じ取りながら、全体の音量のバランスに気を付けて合奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの練習を基に、練習するポイントを3～4つ決めさせ、目的をもって練習ができるようにする。 ○グループごとに練習の仕方について考えさせ、練習に見通しをもつことができるようにする。 ○録音して合奏を聴かせ、成長を実感させ称賛する。 	<p>「雨のうた」の各声部の音やイ短調及びハ長調の和声の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて合奏している。</p> <p>【技② ワークシート・演奏聴取】</p>

次	時	学習内容及び学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法
3	7	・和音に含まれる音を使って、二分音符で旋律をつくる。	○2つのパターンの和音伴奏を聴かせ、それぞれの伴奏からイメージする音楽が違うことから、伴奏も音楽を特徴付けるものであることに気付かせるようにする。 ○和音伴奏のCDを準備し、和音伴奏の響きを感じ取りながら二分音符の旋律を工夫できるようにする。	音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成することに見通しをもち、主体的に音楽をつくる学習に取り組もうとしている。 【関③ ワークシート・行動観察】
	8 (本時)	・つくった旋律のリズムを工夫して、気に入った旋律に仕上げる。	○つくった音楽にタイトルを付けさせることで、思いや意図を表現の工夫と関連付けて捉えることができるようにする。 ○タイトル当てクイズを行うことで、思いや意図を表現の工夫と関連付けて聴取できるようにする。	音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の思いや意図をもっている。 【創③ 演奏聴取・ワークシート】
	9	・7～8時目で学習した内容を生かし、音楽づくりをする。	○グループで感想や助言を伝え合いながら活動ができるようにする。 ○記譜にも挑戦させ、視覚的に、伴奏と旋律の関係を音楽の縦と横の関係から1つのまとまりとして捉えることができるようにする。	音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成している。 【技③ ワークシート・演奏聴取】

8 本時について

(1) 指導目標

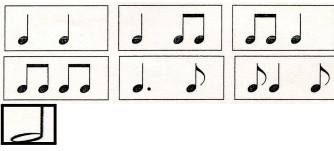
音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の思いや意図をもつことができるようにする。

(2) 指導の視点

ペアやグループで活動することにより、互いに考えを出し合いながら音楽づくりを進めることができるようにする。また、リズムカードを使うことで、即興的にいろいろなパターンを試しながら思いや意図を膨らませることができるようにする。自分たちの音楽にタイトルを付けさせることで、思いや意図を音楽表現の工夫に結び付けさせ、更に、それらの表現の工夫を学級全体で共有・共感できるようにする。

(3) 展開

過程	学習活動	教師の指導 (○)・支援 (●)	評価規準と評価方法
導 入 / 展 開	1 学習内容を知る。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 本時のめあてをつかむ。	○前時の旋律づくりを振り返らせ、本時の学習に対する意欲付けをする。 ○イメージに合った旋律をつくるためにリズムを工夫するという目的意識をもたせる。 つくった旋律のリズムを工夫しよう。	
	2 活動の見通しをもつ。 (1) リズムの工夫の仕方に見通しをもつ。 (2) まとまりのある旋律をつくるコツを確認する。	○全体でリズムの工夫を試し、リズムの工夫の仕方に見通しをもつことができるようにする。 ○リズムを変えたことで、音楽の感じが変わったことを感じ取らせ、自分の音楽も工夫しようとする意欲を高めさせる。 ○既習のまとまりのある旋律をつくるコツを確認し、これを本時の「音楽づくりの約束事」とすることを伝える。 【まとまりのある旋律にするためのコツ】 ・反復する小節をつくる。 ・変化する小節をつくる。 ・全ての2分音符を変化させる必要はない。 ・4小節目は全音符にする。	
	(3) 活動の流れを確認する。	○活動の流れや時間の目安を板書し、見通しをもって主体的に活動ができるようにする。 【活動の流れ】 ①旋律のリズムを工夫する。 ②和音伴奏に合わせて演奏しながらリズムを工夫する。 ③つくった音楽にタイトルを付け、工夫したことを書く。 ④全体で交流する。 ○活動の流れは一方通行で終わるのではなく、試行錯誤することで順番が入れ替わることを確認する。	
3 リズムを工夫する。 (1) 旋律のリズムを工夫する。	○2人組で活動させることで、演奏を聴き合いながら、互いに感想や助言を伝え合い、イメージに合うような旋律をつくることができるようにする。 ○リズムカードを使ってリズムを工夫させることで、即興的にいろいろなパターンを試しながら音楽づくりができるようにする。	音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の思いや意図をもっている。 【創③ 演奏聴取・ワークシート】	

展 開 ／ ま と め	<p>『使用するリズムカード』</p>  <p>(2) 和音伴奏に合わせて演奏しながら工夫する。</p> <div style="border: 1px solid purple; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>伴奏①…練習室 伴奏②…音楽準備室</p> </div>	<p>○リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏を試しながらリズムを工夫するように声を掛ける。 ●演奏しながらの工夫が難しいペアに対しては指導者が演奏して聴かせ、イメージをつかませるようにする。</p> <p>○イメージに合った演奏ができるように、2つのパターンの和音伴奏を聴かせながらリズムの工夫ができるようにさせる。 ●他のグループと交流する中で得た工夫を取り入れるように助言する。 ●リズムの工夫ができない児童に対しては、二分音符のままよいことを伝える。</p>
	<p>(3) つくった音楽にタイトルを付け、工夫したことを書く。</p>	<p>○つくった音楽にタイトルを付けさせることで、思いや意図を表現の工夫と関連付けることができるようにする。</p>
	<p>4 全体で交流する。</p>	<p>○2つの音楽を比較聴取させ、タイトル当てクイズを行うことで、思いや意図を表現の工夫と関連付けて聴取できるようにする。</p>
	<p>5 学習を振り返る。</p>	<p>○自分たちでオリジナルの音楽をつくることのできたことを称賛し、音楽づくりに自信をもたせるようにする。 ○次時の学習内容を知らせ、意欲付けをする。</p>

〈評価規準と評価方法〉

音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の思いや意図をもっている。【創③ 演奏聴取・ワークシート】		
十分満足 (A) と判定する目安	おおむね満足 (B) と判定する目安	●演奏しながらの工夫が難しいペアに対しては指導者が演奏して聴かせ、イメージをつかませるようにする。 ●他のグループの児童が書いた工夫についての発表内容やワークシートの内容を参考にさせる。
つくった音楽にタイトルを付け、タイトルとリズムの工夫を和声の響きや音楽の縦と横の関係と関連させてワークシートに書いている。	つくった音楽にタイトルを付け、タイトルとリズムの工夫が関連するように工夫したことをワークシートに書いている。	